



IFCS-2017 開催にあたり

IFCS-2017 実行委員長 山本 義郎(東海大学)

IFCS-2017 大会組織委員会, 日本分類学会(JCS), 東海大学, 国際分類学会連合(IFCS)が主催として, 2017年8月8日から10日の日程で, 東海大学高輪キャンパスで第15回国際分類学会連合会議(IFCS-2017)を開催いたします。会議のテーマは、「The Challenge of Data Science in the Era of Big Data」です。会議の前日の8月7日にはワークショップも計画しております。

IFCS-2017の準備については, 実行委員会において取り組んでおりますが, 日本分類学会会員を中心に多くの方々にIFCS-2017が充実するようお手伝いをお願いしております。実行委員会からのお願いの聲がかかりましたら, 是非ご協力頂ますようお願い致します。

11月1日には, IFCS-2017のWebサイト(<https://ifcs.boku.ac.at/ifcs2017>)において, 参加登録の受付も開始されました。まずは, ユーザ登録していただきますようお願い致します。

講演申込みの抽象投稿の締切が4月18日となっております。分類学会会員を問わず関心をもつただけの方にお声掛けいただき, 多くの方にご参加いただきますよう, よろしく願いいたします。

平成25・26年度決算・平成26・27年度予算の訂正について

日本分類学会会長 今泉 忠

平成26年3月4日に開催されました第32回通常総会においてご承認いただいた平成25年度決算・平成26年度予算, および, 平成27年3月3日に開催されました第33回通常総会においてご承認いただいた平成26年度決算・平成27年度予算につきまして, 一部表計算ソフトの操作に誤りがあり訂正が必要となりました。会長として十分な確認を行わず申し訳ありませんでした。詳しい訂正箇所と修正後の決算・予算につきましては, 訂正のお知らせを同封し, 合わせて学会Webページ(URL:

<目次>

・IFCS-2017 開催にあたり	1
・平成25・26年度決算・平成26・27年度予算の訂正について	1
・学会大会・セミナー・シンポジウム関連報告・案内	
大会開催報告	1
セミナー開催報告	2
シンポジウム開催報告	3
大会開催案内	4
・IFCS 関連報告	
企画セッション開催報告	4
・学会賞について	
日本分類学会2015年度学会賞選考理由について	5
学会賞受賞者より	6
・学会議事録等	
平成26年度総会議事録	7
運営委員会議事録	8
幹事会議事録	16
・事務局から	20

<http://www.bunrui.jp/>)で公開しましたので, ご参照ください。

大会・セミナー・シンポジウム関連報告

○ 大会開催報告

日本分類学会第34回大会開催報告

大会実行委員長 山本 義郎(東海大学)

日本分類学会第34回大会は, 2016年2月29日(月)～3月1日(火) 東海大学高輪キャンパスにて開催されました。大会初日の2月29日にはデータ分析セミナー「顧客理解のためのマーケティング・データ分析」が開催されました。セミナー後から開催された大会においては2日間にわたって12件の講演とIFCS2017特別パネルディスカッションが行われ, 40名の参加者により活発な討論が行われました。実行委員長として発表者の皆様, 参加者の皆様に感謝を申し上げます。

大会における各セッションの講演は以下の通りです。

IFCS2017 特別パネルディスカッション (2月29日 16:00-17:00)

「ビッグデータ時代の"分類"とは？」

モデレーター：酒折文武(中央大学)

パネリスト：今泉 忠(多摩大学)・久保田貴文(多摩大学)・寺田吉彦(CiNet)・中山厚徳(首都大学東京)

第1セッション (3月1日 10:30~11:50)

- ・SOM の出力ユニットの隣接関係を考慮した階層型クラスター分析法の比較
亀岡 瑠(東海大学大学院理学研究科)・山本義郎(東海大学理学部)
- ・A Model of Cluster Loading and Its Application for a Variable Selection of High Dimension Low Sample Size Data
陳嘉欣(筑波大学大学院システム情報工学研究科)・イリチュ 美佳(筑波大学システム情報系)
- ・判定式に基づくカーネル k-means 法
辻 陽介(筑波大学大学院システム情報工学研究科)・イリチュ 美佳(筑波大学システム情報系)
- ・正則化に基づく Fuzzy Clustering を伴う一般構造化成分分析
山下陽司・谷岡健資(同志社大学大学院文化情報学研究科)・宿久 洋(同志社大学文化情報学部)

第2セッション (3月1日 13:00~14:20)

- ・スパースな核配列をもつ三相主成分分析法—因子回転法との比較—
池本大樹・足立浩平(大阪大学大学院人間科学研究科)
- ・外的基準を持つデータの主成分に基づく変数選択法
山本智基(筑波大学大学院システム情報工学研究科)・イリチュ 美佳(筑波大学システム情報系)
- ・ブランドスイッチングにおける強みと弱みを用いた競争構造の分析
岡太彬訓(多摩大学)・鶴見裕之(横浜国立大学)
- ・医療データに対するアソシエーションプロットを用いた分析
山田実俊(東海大学大学院総合理工学研究科)・山本義郎(東海大学理学部)

第3セッション (3月1日 14:40~16:00)

- ・店舗ごとの商品の売り上げの傾向の分類方法の考察
河野克哉(東海大学大学院理学研究科)・山本義郎(東海大学理学部)
- ・離島における分類構造を利用した人口減少に関する

解析

吉元翔汰(筑波大学大学院システム情報工学研究科)・イリチュ 美佳(筑波大学システム情報系)

- ・統計力の分類—統計検定受験者の解答を用いて
土田 潤(同志社大学大学院文化情報学研究科)・岡部格明(同志社大学文化情報学部)・宿久洋(同志社大学文化情報学部)
- ・大学ポートレートデータに基づく大学分類の試み
西澤正己(国立情報学研究所)・登藤直弥(国立情報学研究所)・孫 媛(国立情報学研究所)

○ セミナー開催報告

- ・2015年度第1回データ分析セミナー開催報告
第1回データ分析セミナー担当 豊田 裕貴(法政大学経営大学院)

2016年2月29日に第1回データ分析セミナー「顧客理解のためのマーケティング・データ分析」が第34回大会(東海大学)とともに開催されました。

セミナーは、2部構成で実務家向けのセミナーとして、マーケティングデータを活用する分析方法について行われました。第1部は、豊田裕貴講師(法政大学経営大学院)による「顧客理解のマーケティングデータ分析：アンケートデータ活用編」で、アンケートによるデータ収集とその活用を中心に分析方法が解説されました。第2部は、佐藤忠彦講師(筑波大学)による「顧客理解のマーケティングデータ分析：購買履歴データ活用編」で、日々蓄積される購買データの活用という視点から分析方法が解説されました。日本分類学会会員のみならず非会員の方にも多数(計28人)ご参加いただきました。

- ・2016年度第1回データ分析セミナー開催報告
第1回データ分析セミナー担当 河野康成(立教大学リーダーシップ研究所)

2016年7月15日に第1回データ分析セミナー「自由記述式調査データの解析」が賛助会員の株式会社NTT データ数理システムに会場を提供していただき開催されました。

セミナーは、3部構成で主にテキスト分析に関して行われました。第1部は、河野康成講師(立教大学リーダーシップ研究所)による「テキスト分析に関するフリー・有料ソフトの紹介および調査における自由記述式データの分析」で、初心者向けに自由記述式データの分析方法が解説されました。第2部は、野守耕爾講師(有限責任監査法人トーマツ)による「テキストマイニングに人工知能技術を応用した自由記述式データの新たな知識化アプローチと分析事例」で、観光地の口コミデータについて、最先端のテキスト分析方法

が紹介されました。第3部は、株式会社NTTデータ数理システムによる「Text Mining Studio とBAYONETを用いたアンケート分析演習」で、参加者自身が実際にソフトウェアで、携帯電話機能に関する消費者意識に関するテキスト分析や映画に関するアンケートについてペイジアンネットワークを用いた分析を体験しました。

日本分類学会会員のみならず非会員の方にも多数ご参加いただき、参加者数は計23名(満席)でした。分析方法に関することなど有意義な意見交換もあり盛況のうちに終了いたしました。

今後、学会では、学会活動活性化のために年3回セミナーを開催する計画としています。2016年度第2回セミナーは、2017年1月頃を予定(内容未定)とし、第3回セミナーは、3月の大会(法政大学)時である2017年3月6日(月)を予定(内容未定)としています。

なお、セミナーの内容については、学会員の方々のご要望を取り入れながら企画したいと考えています。ご意見などありましたら、お気軽に学会事務局(office@bunrui.jp)までご連絡ください。

○ シンポジウム開催報告

・2015年度統計関連学会連合大会 企画セッション「日本分類学会シンポジウム「なぜ、『コレスポンデンス分析・Dual Scaling・数量化理論 再考』か」開催報告

今泉 忠(多摩大学)

岡山大学を開催校とした統計関連学会連合大会において日本分類学会シンポジウム「なぜ、『コレスポンデンス分析・Dual Scaling・数量化理論 再考』か」を2015年9月9日10:00~12:00に岡山大学一般教育棟A41教室にて開催した。台風の影響で参加者数が危ぶまれたが、約65名の方が参加してくださいました。

はじめに、今泉(多摩大学)が、シンポジウム開催の目的および基礎となるコレスポンデンス分析の基礎的な数理を説明した。その後、多重対応分析、同時コレスポンデンス分析、HOLAMSについて簡単に説明した。また、構造化したデータおよび非構造化したデータそれぞれから得られるクロス表の分析の必要性について述べた。次に、村上隆氏(中京大学現代社会学部)が「順序のあるカテゴリカルデータの多重対応分析と主成分分析」として多重対応分析から主成分分析、主成分分析から多重対応分析の関係について発表された。また、直交多項式を用いた分析や多変量正規分布を想定した分析との比較を通じて非線形関係の抽出について発表された。参加者から数理的な特徴やリサンプリングに関する質問があった。

山本義郎氏(東海大学理学部)と山田実俊氏(東海大学大学院理学研究科)による「対応分析を用いたアソシエーションルールによるアンケート結果の可視化」についてスキャンパネルデータ分析の事例が発表された。アソシエーションルールを用いた分析の結果と対応分析の結果を併用して可視を行うと、従来のアソシエーションルールを用いた分析のみでは得られない知見、例えば、度数が小さい場合には対応分析から得られた結果に図示することで誤解のない解釈が可能となる、などが紹介された。分析データの処理について質問があった。林文氏(東洋英和女学院大学)と山岡和枝氏(帝京大学大学院・公衆衛生学研究科)による「数量化Ⅲ類によるデータ解析について—国民性と価値観国際比較データへの適用を中心に—」の発表では、「数量化」の意義について説明があり、また、国際間比較データの分析などを例にして、定型的な数量化Ⅲ類の適用に関する注意点や扱い方について発表がなされ、適用での方針の立て方や結果の解釈の重要性が指摘された。特に、少数の数量化得点を用いて説明することについて問題点などが指摘された。最後に足立浩平氏(大阪大学大学院・人間科学研究科)から「コレスポンデンス分析・Dual Scaling・数量化理論 ディスカッション」として、一般化正準分析と多重分析と主成分分析などで最小二乗解を採用する場合の統一的な枠組みでの把握について発表がなされた。また、これらの手法での多重対応分析の位置付けなども説明がなされた。

参加者から従来のコレスポンデンス分析では想定していないような度数が小さいようなデータの分析に関して質問があり、発表者から生産的な回答があった。

・2016年度統計関連学会連合大会 企画セッション 日本分類学会シンポジウム「分類理論の最前線」開催報告

横山 暁(帝京大学)

2016年9月4日~9月7日に金沢にて開催された2016年度統計関連学会連合大会において、日本分類学会シンポジウム「分類理論の最前線」が開催された。

本シンポジウムの趣旨・ねらいは以下のとおりであった。

データ分析としての分類手法の理論は古くから研究がなされてきているが、ビッグデータ時代の昨今、扱うデータの複雑化・大規模化に伴ってその重要性が増すとともに、劇的な発展を遂げてきている。

このような分類の理論に関する研究の最前線について講演いただき、日本分類学会員や連合大会参加者に広く共有することを目的とする。

セッションは以下の4件の若手の研究者の講演で構成され、分類に関する研究についてお話しいただいた。

- 1 外部情報を考慮した制約付き非対称多次元尺度構成法について 谷岡 健資 (和歌山県立医科大学 臨床研究センター)・宿久 洋 (同志社大文化情報)
- 2 低次元成分モデルに基づく予測的クラスタリング 山本 倫生 (京都大 医)・川口 淳 (佐賀大学 医)
- 3 セントロイド行列の解釈可能性を考慮した K-means クラスタリング 山下 直人 (慶應義塾大 システムデザイン・マネジメント研究科)
- 4 木構造値データの分類手法とがん進化系統樹への応用 松井 佑介 (名古屋大 医)・宮野 悟 (東京大学 医科学研究所)・島村 徹平 (名古屋大 医)

大会2日目の9月5日の13:00~15:00での開催であり、10ものセッションが並行する中での企画セッションであったが、多数の聴衆に恵まれ、また、どの講演でも活発な質疑応答がなされ、大変盛会であった。

○ 大会開催案内

日本分類学会第35回大会開催について

実行委員長 豊田 裕貴(法政大学)

日本分類学会第35回大会を2017年3月6日(月)~3月7日(火)に法政大学・新一口坂校舎にて開催することとなりました。法政大学新一口坂校舎は、JR・地下鉄市ヶ谷駅もしくは飯田橋駅から徒歩10分にあり、アクセスの良い場所でございます。東京都心での開催となり、地方の方を含め、多くの会員の皆様のご参加ならびにご講演をいただけるよう心よりお待ちしております。

なお、大会中には、チュートリアルセミナーを合わせて開催いたします。大会への申込ならびにセミナーの詳細については、確定し次第、日本分類学会のウェブページ <http://bunrui.jp/> および大会ウェブページ <http://www.jcs35.com/> にてお知らせさせていただきます。

本大会ならびにセミナーが有意義な会となるよう実行委員一同最善を尽くし、皆様をお待ちしております。大会についてのお問い合わせは、大会事務局(豊田裕貴)までお願い致します。

日本分類学会第35回大会事務局

豊田裕貴

連絡先:jcs2016hosei@gmail.com

IFCS 関連報告

○ 2016 年度統計関連学会連合大会 企画セッション 開催報告

2016年度統計関連学会連合大会(金沢)において企画セッション「IFCS-2017: ビッグデータとデータ分析・分類手法」を実施した。これは、2017年8月8日~10日に東海大学高輪キャンパスにおいて、日本分類学会も主催団体の一つである第15回国際分類学会連合会議(IFCS-2017)を大会テーマ「The Challenge of Data Science in the Era of Big Data」として開催することを受けて設けたものである。企画セッションの目的は、IFCS-2017のテーマとも関連し「ビッグデータ」時代におけるデータ分析や分類手法の方向性について検討することであった。各発表者による発表のうちに、総合ディスカッションの形式で実施された。以下のタイトルで5名の方から発表がなされた。

- ・医療ビッグデータの活用における統計家の役割 山本 倫生 (京都大学大学院 医学研究科)
- ・特定キーワードを含む SNS データを用いた分類と特徴抽出 久保田 貴文 (多摩大学 経営情報学部)
- ・ビッグデータを扱うためのミニデータアプローチについて 水田 正弘 (北海道大 情報基盤センター)
- ・マーケティングにおける Web コミュニケーションデータ活用の可能性 中山 厚徳 (首都大学東京大学院 社会科学研究経営学専攻)
- ・ハビタット空間的分割とその比較 小田 牧子 (防衛医科大学校 医学教育部)他

山下氏からはビッグデータ活用が進む医療データ分野での統計家の果たす役割についての提言があった。久保田氏からは SNS データの内容による分類とその時系列推移をもとにした特徴抽出について提案がなされた。水田氏からは **Dead of Big Data** として、全てのデータがビッグデータとなった時代に、どのようにデータを要約して分析するのが重要ではないかとの提言がなされた。中山氏からは Web コミュニケーションデータについて国際規格の整備状況などの紹介がなされた。また、その活用の可能性とともにリスクなどを考慮することに関しての提言がなされた。小田氏からは生物学分野でのエシェロン分析を用いた新しい分類に関する視点とその方向について提言がなされた。

各発表者の内容は、実際の適用場面と分析手法を繋ぐもので、午前10時からのセッションであったが100

名以上の参加者があり活発な討議がなされた。

学会賞について

○ 日本分類学会 2015 年度学会賞選考理由について

今泉 忠 (多摩大学)

日本分類学会賞として日本分類学会貢献賞・日本分類学会論文賞・日本分類学会奨励賞があります。この度、第二回日本分類学会賞に関する授賞候補者を選考し、運営委員会で決定し総会におきまして授賞式を行いました。ここでは、各授賞者に関する受賞理由を要約して述べることで、授賞者を祝するとともに皆様の研究促進の一助になればと存じます。

今年度の授賞式者として、貢献賞は大隅昇会員、論文賞は、山下直人会員 (対象論文: Yamashita, N. (2015). A new biplot procedure with joint classification of objects and variables by fuzzy c-means clustering. *Advances in Data Analysis and Classification*, 9, 243-266), 奨励賞は土田潤 (学生) 会員 (同志社大学) が選ばれました。以下の簡単に選考理由について述べます。

日本分類学会貢献賞 会員

主な選考理由

大隅昇会員は、質的変数の分析手法として有名な林知己夫氏による数量化理論の応用と普及に貢献しました。また、フランスで開発されたフランス学派による対応分析の紹介と普及もすすめ、翻訳書「記述的多変量解析法」により、多重対応分析などを含めたフランス学派によるデータ分析を広く知らしめることで、日本の質的変数の分析の発展に貢献しました。

調査法に関してはハンドブックの監訳などを進められるとともに、マーケティング調査で使われ始めたインターネット調査に早くから着目し、調査方法論として研究を重ね、正当な調査法としての方法論を確立することに貢献しました。

また、コンピュータ利用とともに急激な社会から要請されるようになりましたテキストデータの分析や自由記述式の調査データに関して、その方法論とそのためコンピュータプログラム **WordMiner** の開発により、テキストデータの分析に関する分類学的手法の開発とその普及に貢献しました。

これらの研究成果を広く社会に還元するために、コンピュータを活用したデータ解析の利活用のテキストの出版などで社会に貢献しました。

さらに、日本分類学会の前身でもある「分類の理論と方法に関する研究会」から発足メンバーとしても貢献されました。国際分類学会連合 (International Federation of Classification Societies: IFCS) の

Council メンバーとして活動されるとともに IFCS96 の実行委員長として、その開催と運営に大きく貢献されました。

日本分類学会論文賞 会員

主な選考理由

山下直人会員の受賞対象論文となりましたのは、特に、*Advances in Data Analysis and Classification* に掲載された Yamashita, N. (2015). A new biplot procedure with joint classification of objects and variables by fuzzy c-means clustering. *Advances in Data Analysis and Classification*, 9, 243-266 であり、この論文は、変数と個体について多次元布置を求めると同時にクラスタリングを行う方法を提案した論文であります。この方法は、データに潜んでいる連続的な情報と離散的な情報を、一方を無視するあるいは優先するということなく、同時に実行することができるものです。本論文で提案された方法は、本学会の学会誌「分類の理論と応用」第 2 巻第 1 号に掲載された同一著者によります以下の

山下直人・前川眞一 (2012). K-平均クラスタリングによる個体・変数の分類を伴うバイプロット. *分類の理論と応用*. 2, 33-51.

を発展させたものでもあります。山下・前川 (2012) ではクラスターが[所属する/所属しない]といういわゆるクリスプなものでありました。しかし、授賞対象である本論文ではファジークラスターへのクラスタリングへ拡張しています。手法の導きかたはエレガントであり巧みであります。今後さまざまな分野での多様な応用が期待できます。データ科学としての分類やデータ分析に関して、特に優秀な論文と認められます。

日本分類学会奨励賞 会員 (学生会員)

主な選考理由

土田潤 (学生) 会員は国際分類学会連合 (IFCS) および日本分類学会大会などで精力的に研究発表されております。特に、IFCS-2015 における発表の内容は特に今後の進展が期待されと考えられます。本発表は、2 組の 3 相 3 元データ (対象×変数×個人などの 3 つの組み合わせについて収集されたデータ) について正準相関分析モデルを提案し、そのモデルを適合するための推定方法を提案しています。3 相 3 元データは、3 者の関係を同時に扱う必要があり、データの持つそのような構造をたもったまま分析するための方法は非常に限られています。本発表は 2 組の 3 相 3 元データの関係を、データ構造を保ったまま分析し、両者の関係を明らかにする方法を提示しました。3 相 3 元データはマーケティング、社会調査などさまざまな領域で

今後ますます収集される機会が多くなることが考えられます。その意味でも本発表がデータ解析の理論、方法、多様な分野での応用に大きく寄与すると考えられます。

○ 学会賞受賞者より

日本分類学会貢献賞を受賞して
「あらためて『分類』を考える」

大隅 昇

この度は、身に余る賞をいただき、まことにありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

受賞の言葉を、とのご依頼をいただきましたが、適当な言葉を思いつかず、学会設立時の裏話を、思い付くまま2つほどお話しいたします。

学会設立時にはどの学会でも「設立趣意書」や「ロゴ」を考えます。本学会も例に漏れず、これに取り組みました。ロゴは、前身の「分類の理論と応用に関する研究会」の設立時にすでにありました。この図柄からデンドログラムを連想するでしょうが、遊び心で、香合わせの「源氏香」の一つ「匂宮」をヒントに作ってみました。しかし、このささやかなもくろみも、残念ながら、林知己夫先生、矢島敬二先生のお二人には通じず見破られてしまいました。

趣意書をどうするか、これが難題で作文がなかなかはかどりません。「分類」という概念はあまりにも日常のことであり、あらためてこれを文字にすると説得力のない駄文になります。水野欽司先生のお知恵を借りし、二人で作文に苦慮するなか、林知己夫先生が「おい、こんなことでどうだ」と独特の筆遣いの走り書きメモをいただき、3者の合作として、なんとか用意できました。

この趣意書、書き換えられたと思っていたのですが、当時(1983年)のままのようです。この始めに「分類」はあらゆる科学における基本的な思考操作である。しかしながら、このことは従来とかく看過されがちであった。「分類を通じて物事を知る」ということがあまりにも当然であるために改めてそれが固有の方法であると意識されなかったのである。…」とあります。

読み進めると、「膨大なデータが蓄積される時代」「新しい研究は学際的であり、また境界領域に多い」「科学の諸分野が相互に成果を共有するという方向から“分類”そのものを再考する」、そして「質の高い情報を得るための分類のあり方を体系化」等、自賛になりますが、私が(おそらく泉下の林・水野両先生も)、いまでも言いたいことが尽くされております。

ビッグデータ、人工知能、モノのインターネット、それらの統計科学との連携と、世間は喧騒の中にあり

ます。ここに通底することとして“分類の概念と研究の深化、再構築と実用化”が益々重要になることは明らかです。単純にみえる“ビッグデータのクラスター化”一つを考えても、実用に耐える方法は未だないようです。卑近な例で、膨大な量の非構造的なテキスト型データを効率よく分類し理解の容易な形にするうまい方法も見当たらず、分析に苦慮します。

調査方法論の分野では、昨今、データ収集過程(モード)の品質評価、つまり“集まるデータ”を追いかけるだけでなく、意味のある質の高いデータを“どのように集められるか”が重要な課題となっております。すこし古い言葉ですが、ゴミはいくら集めてもゴミにしかならない(GIGO)、ではゴミではないデータはどこにあるのか、これの答えもなかなかみえません。そして、いずれの場面でも「分類」は重要なキーワード、「分類研究とは何か」を再考することが問われているように感じます。

おわりに、学会の発展ならびに会員の皆様の益々のご活躍を祈念して、御礼の言葉とさせていただきます。

大隅 昇(おおすみ のぼる)

日本大学大学院理工学研究科卒業(1972年)、同年 文部省統計数理研究所 第四研究部研究員。文部科学省統計数理研究所・調査実験解析研究系助教授(1985年)、教授(1991年)を経て、現在は大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 統計数理研究所・名誉教授(2004年から)、博士(理学)。

日本分類学会論文賞を受賞して

山下 直人(慶應義塾大学)

この度は、栄えある賞を授与いただき、大変光栄に存じます。本受賞は、これまでご指導ご鞭撻いただきました諸先生方、諸先輩方に寄るところが大きく、この場を借りて厚く御礼申し上げます。特に、本受賞の対象である Yamashita & Mayekawa(2015, ADAC)は、私が修士課程在籍中に行った研究の成果であり、指導教官の東京工業大学・前川眞一教授、ならびに学部生時代から継続してご指導いただいております、大阪大学・足立浩平教授に特に感謝申し上げます。

受賞対象の論文は、初めて国際誌に採択された論文であり、いわば私の研究者としての「世界デビュー」となった論文です。対象論文は、データ構造の視覚化の方法として用いられることの多い、主成分分析に基づくパイプロットに関して、その解釈を容易にするための方法を提案したものです。提案手法では、個体と変数の分類と、個体クラスター・変数クラスターのパイプロット表現を同時に行う方法です。特に多数の個体・

変数からなる大規模データセットに対しては、データ構造を直感的に把握しやすいバイプロットが得られる点で有効な手法であると考えられます。また、提案手法は個体・変数をファジィに分類するものであり、対象論文掲載の2年前に「データ分析の理論と応用」に掲載された山下・前川(2012)の拡張であるとも捉えられます。拡張にあたっては、共著者であり当時の指導教官の前川教授と一緒に、研究室でともに式を展開したり、ときには山にこもって査読結果への対応に知恵を絞ったりした日々が思い返されます。

探索的な多変量データ解析は、入力されたデータに対する解の出力による「現象の近似」と、その解釈による「現象の理解」の2つの段階によって構成されると考えられます。特に心理統計学の分野では二つ目の現象の理解を容易にするための方法として、因子回転をはじめとする様々な研究が連綿と行われてきた歴史があります。受賞対象の論文で提案させていただいた、解釈の容易なバイプロットを得る方法も、その歴史に微力ながら貢献できたと、僣越ながら感じている次第です。

今後は、本受賞を励みとして、研究と論文誌への投稿に邁進していきたいと考えております。まだまだ未熟ではありますが、諸先生方にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



山下 直人
(やました なおと)

2011年3月大阪大学人間科学部人間科学科卒業、2013年3月東京工業大学社会理工学研究科人間行動システム専攻修士課程修了。2016年9月現在、慶應義塾大学大学院システム

デザイン・マネジメント研究科修士課程在学中。

日本分類学会学生奨励賞を受賞して

土田 潤 (同志社大学大学院)

この度は日本分類学会奨励賞という栄えある賞をいただき大変光栄に存じます。今回の受賞はひとえに分類学会の諸先生方や皆様方のご指導あつての賜物であり、心より御礼申し上げます。また、学部生のころより、ご指導いただきました同志社大学文化情報学部の宿久洋教授には厚く御礼申し上げます。

本学会に関連して、日本分類学会大会や国際分類学会連合の会議にて現在まで3つの研究内容について発表させていただきました。1つめは F -measure を最大化する潜在クラスロジスティック回帰分析について発表させていただき、2つめは3相3元データに対す

る正準相関分析について、3つめは、統計検定の受験者の解答傾向について発表させていただきました。日本分類学会は私が初めての学会発表を行わせていただいた学会というだけでなく、方法論から応用研究に至るまで、諸先生方には、発表内容に関する貴重な意見、コメントをいただき、様々な面でお世話になりました。重ねて心より御礼申し上げます。

今回頂いた賞を励みにより良い研究ができるように研究活動に邁進する所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



土田 潤
(つちだ じゅん)

2013年3月同志社大学文化情報学部卒業、2015年3月同志社大学大学院文化情報学研究科博士課程前期課程修了、2016年8月現在同志社大学大学院文化情報学研究科博士課程後期課程在学中。

学会議事録等

○ 平成 27 年度総会議事録

開催日時：平成 28 年 3 月 1 日(火)16:10~17:00

開催場所：東海大学高輪キャンパス (〒108-8619 東京都港区高輪 2-3-23 1号館 2階 1201 教室)

出席者：18 名

■開会の挨拶

中山幹事長の挨拶により総会が開会された。

■2015 年度日本分類学会賞授賞式

2015 年度日本分類学会賞授賞式において、大隅昇氏(統計数理研究所・名誉教授)に貢献賞、山下直人氏(慶應義塾大学)に論文賞、土田潤氏(同志社大学)に奨励賞が授与された。

■議長の選出

議長として岡山理科大学の森裕一氏が推薦され、承認された。

■報告事項

1. 大会の次回開催場所について

中山幹事長より次回の第 35 回大会を法政大学の豊田裕貴氏を大会実行委員長として平成 29 年 3 月 6 日~7 日に開催予定であることが報告された。

2. J-Stage への登録について

中山幹事長より J-Stage への登録について報告された。

3. 催促, 学会賞内規の改正について

中山幹事長より資料に基づいて催促および学会賞内規の改正について報告された。

■審議事項

1. フェロー制度の設置について

中山幹事長よりフェロー制度の設置について資料に基づき説明があった。審議の結果, 承認された。

2. 平成 27 年度事業報告ならびに決算報告について

久保田庶務担当幹事から平成 27 年度事業報告について, 河野会計担当幹事から平成 27 年度決算報告について説明があった。審議の結果, 一部文言の修正の上, 承認された。

3. 平成 28 年度事業計画ならびに予算計画について

久保田庶務担当幹事から平成 28 年度事業計画について, 河野会計担当幹事から平成 28 年度予算計画について説明があった。審議の結果, 一部文言の修正の上, 承認された。

■閉会の挨拶

中山幹事長の挨拶により総会が閉会された。

○ 運営委員会議事録

・平成 27-28 年度第 2 回ネット運営委員会
開催日時: 平成 27 年 5 月 20 日~6 月 9 日
(メールによる審議)

下記の議題について審議し, 承認された。

議題 1. 退会承認について
議題 2. 入会承認について

・平成 27-28 年度第 3 回ネット運営委員会
開催日時: 平成 27 年 9 月 12 日~9 月 30 日
(メールによる審議)

下記の議題について審議し, 承認された。

議題 1. 退会承認について
議題 2. 入会承認について

・平成 27-28 年度第 4 回ネット運営委員会
開催日時: 平成 28 年 2 月 15 日~2 月 19 日
(メールによる審議)

下記の議題について審議し, 承認された。

議題 1. 学会賞候補者の承認について
議題 2. 細則の改正について
議題 3. 入会承認について

日本分類学会 平成 27 年度事業報告

平成 28 年 3 月 1 日

1. 第 34 回大会, データ分析セミナーの開催

第 34 回大会を平成 28 年 2 月 29 日 (月) ~3 月 1 日 (火) に東海大学高輪キャンパスで開催した (大会委員長: 山本義郎氏 (東海大学), 発表件数 12 件). データ分析セミナー「顧客理解のためのマーケティング・データ分析」を平成 28 年 2 月 29 日 (土) (第 34 回大会会期中) に, 豊田裕貴氏 (法政大学経営大学院) を中心に開催した.

2. シンポジウム等の開催

2-1. 2015 年シンポジウム

2015 年シンポジウム「コレスポネンズ分析・Dual Scaling・数量化理論再考」を平成 27 年 9 月 9 日 (水) (統計関連連合大会会期中) に今泉忠氏 (多摩大学) を中心に開催した.

2-2. IFCS-2017 特別パネルディスカッション

IFCS-2017 特別パネルディスカッション「ビッグデータ時代の"分類"とは?」を平成 28 年 2 月 29 日 (月) に酒折文武氏 (中央大学) を中心に開催した.

3. 第 34 回通常総会の開催

第 34 回通常総会を第 34 回大会開催中の平成 27 年 3 月 1 日 (日) に東海大学高輪キャンパスにて開催した.

4. 運営委員会, 幹事会の開催

(1) 運営委員会は第 1 回を平成 27 年 3 月 3 日 (火) に帝京大学霞ヶ関キャンパスで開催した. 主に, 運営方針, 幹事長の選出, 幹事会の構成, 大会の次回開催場所, 次回セミナー, 平成 26 年度事業報告ならびに決算報告, 平成 27 年度事業計画ならびに予算計画, 総会議題, IFCS2017, 入退会について審議され, 承認された. 第 2 回はネット上で開催し, 入会 2 件, 退会 1 件が審議され, とともに承認された. 第 3 回はネット上で開催し, 入会 1 件, 退会 1 件が審議され, とともに承認された. 第 4 回はネット上で開催し, 学会賞候補者について, 細則の改正について, さらに 1 件の入会について審議され, すべて承認された. 第 5 回を平成 28 年 3 月 1 日 (火) に東海大学高輪キャンパスで開催した. 主に, 次回大会, 次回セミナー, フェロー制度の設置, 会則等の変更, J-Stage への登録, 学会誌バックナンバーの販売, 平成 27 年度事業報告ならびに決算報告, 平成 28 年度事業計画ならびに予算計画, 総会議題について議論され, 承認された.

(2) 幹事会は第 1 回を平成 27 年 5 月 18 日 (月) に立教大学で開催した. 主に, 学会賞, J-Stage への登録, 学術会議への登録, 日本分類学会セミナー, 及びその他検討の必要な課題などを議論した. 第 2 回を平成 27 年 9 月 9 日 (水) の統計関連学会連合大会期間中に岡山大学で開催した. 主に, IFCS-2017 組織構成や主催・国内委員について, フェロー制度の設置について, 大会開催, セミナー開催, その他検討の必要な課題などを議論した. 第 3 回を平成 28 年 2 月 29 日 (月) に東海大学高輪キャンパスで開催した. 主に, 次回大会・セミナーについて, フェロー制度の設置について, 会則等の変更について, 学会誌バックナンバーの販売について, 平成 27 年度事業報告ならびに決算報告について, 平成 28 年度事業計画ならびに予算について, 総会の議題について議論した.

5. 会報, ウェブページ, メールニュースおよび Facebook による学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に, 学会活動の告知および報告を会報 (No.34 を平成 27 年 10 月発行) およびウェブページにて発信した. 加えて, 速報性のある情報についてはメールニュースや Facebook などを活用し, 適宜会員への情報提供を行った.

6. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行, ADAC (欧文ジャーナル) の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に第 5 巻第 1 号 (特集「コレスポネンズ分析・Dual Scaling・数量化理論再考」, 担当編集委員: 今泉忠氏 (多摩大学)) の発行を行った. また ADAC への発行協力および投稿支援を行っ

た.

7. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合理事会への協力, 理事会への参加, プログラム委員会, 運営委員会への参加, 2015年度統計関連学会連合大会の共催を行った.
- (2) 国際分類学会(IFCS)への協力, 分担金の支払いを行った. IFCS-2017 日本開催に向けて検討した.
- (3) IFCS 傘下学会への協力を行った.
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行った.

8. 学術会議への登録検討

本学会を学術会議へ日本学術会議協力学術研究団体として登録することについて, 必要な書類等を確認し, 申請した.

9. 学会資料の電子化および保管

本学会の雑誌を JST が公開しているデータベースへの登録を行った. また本学会の資料を J-Stage 等の団体での電子媒体での公開を踏まえ調整を行うことについては継続審議とした.

平成 27 年度決算
平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科 目	予算額	決算	増 減	備 考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	2,000	△ 8,000	2,000 円 × 1 人
2 会費収入	527,000	654,000	127,000	納入率 71%
正会員	485,000	512,000	27,000	5,000 円 × 102 人 + 2,000 円 × 前年度繰上り 1 人 (納入率: 71%)
シニア会員	8,000	8,000	0	3,000 円 × 2 人 (納入率: 100%)
学生会員	8,000	11,000	5,000	2,000 円 × 2 人 + 1,000 円 × 前年度繰上り 1 人 (納入率: 85%)
賛助会員	30,000	30,000	0	30,000 円 × 1 口 (納入率: 50%)
前年度以前分	0	65,000	65,000	
前受金	0	30,000	30,000	
3 論文誌関係収入	150,000	302,904	152,904	
論文集売上	0	0	0	
予稿集売上	0	0	0	
広告収入	150,000	180,000	30,000	Vol4 50,000 円 × 3 社 + 30,000 円 × 1 社
別刷代金	0	17,280	17,280	Vol4 別刷代
論文誌関係雑収入	0	105,624	105,624	Vol4 カラー印刷代およびTeX化料金
4 雑収入	240,000	118,048	△ 121,952	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	独立採算
セミナー参加費	240,000	118,000	△ 122,000	予算は年2回、本年度は年1回
寄付・広告等	0	0	0	
利息収入	0	48	48	銀行口座利息
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	IFCS負担金積立より繰入
A 当期収入合計	952,000	1,101,952	149,952	
B 前期繰越収支差額	1,112,576	1,112,576	0	
C 収 入 合 計 (A+B)	2,064,576	2,214,528	149,952	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	500,000	615,818	△ 115,818	
和文誌 (Vol.5)	500,000	489,350	10,650	送料を含む
論文誌関係雑支出	0	126,468	△ 126,468	別刷り、TeX化料金、カラー印刷代金
その他	0	0	0	
2 事業費	140,000	115,680	24,320	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	50,000	0	シンポジウムは運営大会のときに実施
セミナー運営補助費	50,000	40,000	10,000	謝辞贈り(会員10,000円、非会員30,000円)
広報費	5,000	0	5,000	
学会賞経費	35,000	25,680	9,320	表彰状経費、花代、大会参加費
名簿作成	0	0	0	
選挙経費	0	0	0	平成27年度選挙なし
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	47,000	39,601	7,399	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	45,000	38,056	6,944	会費弁当代
その他	2,000	1,545	455	会計監査会謝費・学会賞選考委員会謝費
4 事務費	125,920	108,092	17,828	
業務委託費	50,420	50,432	△ 12	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	0	10,000	
事務用品・消耗品費	25,000	15,551	9,449	
ADAC 事務連絡費	2,000	0	2,000	
ウェブ運営管理費	3,500	3,229	271	ドメイン更新料
会報印刷費	30,000	38,880	△ 8,880	会報 No.34
印刷費	5,000	0	5,000	
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	36,000	58,080	△ 22,080	
会報等送料	25,000	21,520	3,480	
会費請求等連絡通信費	8,000	10,808	△ 4,808	会費請求に関する資料等の送付
その他	5,000	25,752	△ 20,752	学会過去資料送付・大会案内等
6 負担金	70,216	77,580	△ 7,364	
IFCS	50,000	57,364	△ 7,364	2007年・12年分(平成27年度・平成28年度分)および別冊送付等経費
統計関連学会連合	20,216	20,216	0	平成27年度分(繰込平数料を含む)
7 積立	30,000	30,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	
名簿作成のための積立	0	0	0	
選挙経費のための積立	25,000	25,000	0	
IFCS負担金のための積立	0	0	0	
8 予備費	1,000	0	1,000	
D 当期支出合計	950,136	1,044,651	△ 94,715	
E 前期繰越支差額 (A-D)	1,864	57,101	△ 55,237	
F 次期繰越収支差額 (C-E)	1,114,440	1,169,677	△ 55,237	
G 支 出 合 計 (D+F)	2,064,576	2,214,528	△ 149,952	

日本分類学会会則第 10 条に基づき、平成 27 年 4 月 1 日より平成 28 年 3 月 31 日までの会計経理を監査した結果、決算報告書の通り相違ないことを認めます。

平成 28 年 8 月 22 日

会計監事

林 篤 裕 印

会計監事

竹 内 光 悦 印

(実際の修正済みの決算報告書には両監事の直筆の署名と押印あり)

日本分類学会 平成 28 年度事業計画

平成 28 年 3 月 1 日

1. 第 35 回大会, セミナー, シンポジウムの開催

第 35 回大会を平成 29 年 3 月 6 日～7 日に豊田裕貴氏 (法政大学経営大学院) を実行委員長として法政大学市ヶ谷キャンパスで開催する。また, 大会会期中にセミナーを開催する。さらに 2 回程度セミナーを開催する。シンポジウムを平成 28 年 9 月 (統計関連学会連合大会会期中) に開催する。

2. 第 35 回総会の開催

第 35 回総会を第 35 回大会開催中の平成 29 年 3 月に開催する。

3. 運営委員会, 幹事会の開催

(1) 運営委員会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する
下記事項を検討課題とする。

- ・他学会大会・シンポジウムへの協賛, 統計関連学会連合への対応
- ・総会の議題
- ・その他検討の必要な課題

(2) 幹事会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。

4. 会報, ウェブページ, メールニュースおよび Facebook による学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に, 学会活動の告知および報告を会報 (No.35 を平成 28 年 6 月発行) およびウェブページにて発信する。加えて, 速報性のある情報についてはメールニュースや Facebook などを活用し, 適宜会員への情報提供を行う。

5. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行, ADAC (欧文ジャーナル) の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に第 6 巻第 1 号の発行を行う。また ADAC への発行協力および投稿支援を行う。

6. 学会賞について

平成 28 年度の学会賞を授与する。

7. フェローについて

フェローの称号を授与する。

8. 次期役員選挙

次期役員選挙を行う。

9. IFCS-2017 の準備

IFCS-2017 の主催団体として活動を進める。

10. 第 5 回日独分類学会

2016 年 9 月 12 日～13 日にギェンツブルク (ドイツ) で開催される第 5 回日独分類学会の開催を支援する。

11. 他学会との交流と協力

(1) 統計関連学会連合理事会への協力・参加, 2016 年度統計関連学会連合大会の共催, 同大会プログラム委員会および運営委員会への参加

(2) 国際分類学会(IFCS)への協力, 分担金の負担

(3) IFCS 傘下学会への協力

(4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

平成 28 年度予算
平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科 目	予算額	前年度予算	増減	備 考
I 収入の部				
1 入会金収入	10,000	10,000	0	2,000 円×5 人として算出
2 会費収入	571,000	527,000	44,000	
正会員	525,000	485,000	40,000	5,000 円×(150人×0.7=105人)として算出
シニア会員	6,000	6,000	0	3,000 円×(2人)として算出
学生会員	10,000	6,000	4,000	2,000 円×(5人)として算出
賛助会員	30,000	30,000	0	30,000 円×1 口として算出
前年度以前分	0	0	0	
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	306,468	150,000	156,468	
論文販売上	0	0	0	0 バックナンバー販売など
予稿販売上	0	0	0	0 バックナンバー販売など
広告収入	180,000	150,000	30,000	論文誌 Vol.5 の広告収入
別刷代金	24,300	0	24,300	別刷り(Vol.5)立替分
論文誌関係雑収入	102,168	0	102,168	Tax化料金、カラー印刷代金(Vol.5)立替分
4 雑収入	360,000	240,000	120,000	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	
セミナー参加費	360,000	240,000	120,000	実績より年3回で算出
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
預立より繰入	25,000	0	25,000	繰上算出
A 当期収入合計	1,272,468	952,000	320,468	
B 前期繰越収支差額	1,169,677	1,112,576	57,101	
C 収入合計(A+B)	2,442,145	2,064,576	377,569	
II 支出の部				
1 論文誌発行業務費	565,000	500,000	△ 65,000	
和文誌(Vol.8)	565,000	500,000	△ 65,000	送料を含む
論文誌関係雑支出	0	0	0	
その他	0	0	0	
2 事業費	290,000	140,000	△ 150,000	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	50,000	0	シンポジウムは運営大会のときに実施
セミナー運営補助費	50,000	50,000	0	年3回で、講師謝礼・資料作成費等
広報費	5,000	5,000	0	学会パンフレット作成費
学会運営経費	35,000	35,000	0	表彰状経費、花代、大会参加費
名簿作成	0	0	0	今年度実施計画なし
選挙経費	50,000	0	△ 50,000	実績より算出
J-Stage学会誌公開費用	100,000	-	△ 100,000	平成28年度より開始
その他	0	0	0	
3 学会運営委員会費	47,000	47,000	0	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	45,000	45,000	0	実績より算出
その他	2,000	2,000	0	実績より算出
4 事務費	134,932	125,920	△ 9,012	
庶務委託費	50,432	50,420	△ 12	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	10,000	0	
事務用品・消耗品費	25,000	25,000	0	実績より算出
ADAC 事務連絡費	2,000	2,000	0	担当者のみ発送、購読費は会費に上乗せ、実績より算出
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	実績より算出
会報印刷費	39,000	30,000	△ 9,000	会報 No.35、実績より算出
印刷費	5,000	5,000	0	開催案内、プログラムなど連絡用印刷費
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	36,000	36,000	0	
会報等送料	25,000	25,000	0	会報 No.35、学会からのお知らせ、実績より算出
会費請求等連絡通信費	6,000	6,000	0	会費請求に関する資料等の送付、実績より算出
その他	5,000	5,000	0	大会(総会)案内、他学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	20,216	70,216	50,000	
IFCS	0	50,000	50,000	隔年で2年分払いのため平成28年度はなし
統計関連学会連合	20,216	20,216	0	平成28年分、振込手数料を含む
7 積立	30,000	30,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	厚削、独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	0	25,000	25,000	
IFCS負担金のための積立	25,000	0	△ 25,000	IFCS 負担金支払いのための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	1,124,148	850,136	△ 174,012	
E 当期収支差額(A-D)	148,320	1,864	△ 146,456	
F 次期繰越収支差額(C-E)	1,317,997	1,114,440	△ 203,557	
G 支出合計(D+F)	2,442,145	2,064,576	△ 377,569	

・日本分類学会 平成 27-28 年度第 5 回運営委員会

開催日時：平成 28 年 3 月 1 日（火），11:50-13:00

開催場所：東海大学高輪キャンパス

〒108-8619 港区高輪 2-3-23 1 号館 2 階 12 会議室

出席者：今泉忠（会長，多摩大学），中山厚穂（幹事長，首都大学東京），酒折文武（中央大学），佐藤美佳（筑波大学），豊田裕貴（法政大学），宿久 洋（同志社大学），

山本義郎（東海大学），横山 暁（帝京大学）（会長，幹事長以外五十音順，敬称略）

陪席者：久保田貴文（多摩大学，庶務担当幹事），河野康成（立教大学リーダーシップ研究所，会計担当幹事）

議題

報告事項

（検討）

1. 学術会議の登録について
2. 編集委員会規定

審議事項

1. 次回大会について
2. セミナーについて
3. フェロー制度の設置について（資料 1）
4. 会則等の変更について（資料 2）
5. J-Stage への登録について
6. 学会誌バックナンバーの販売について
7. 平成 27 年度事業報告ならびに決算報告について（資料 3）
8. 平成 28 年度事業計画ならびに予算計画について（資料 4）
9. 総会議題(案)

報告事項

- (1) 大会の次回開催場所について

審議事項：

- (1) 平成 27 年度事業報告ならびに決算報告について
 - (2) 平成 28 年度事業計画ならびに予算計画について
 - (3) その他
10. 入退会
 11. その他

■開会の挨拶

中山幹事長の挨拶により運営委員会が開会された。

議題

■ 報告事項

1. 学術会議の登録について
中山幹事長より学術会議の登録についての説明がな

された。中山幹事長が資料 1 に基づいてリストアップした関連する学問分野・分野別委員会について相談があった。学術会議に登録するために必要な情報として，ADAC の発行部数を Springer 社に照会することとなった。また，本件は本年度中に提出する予定である旨が報告された。

2. 編集委員会規定

中山幹事長より，現在編集委員会に規定がないため，今後規定を作成しはじめる旨の報告があった。

■審議事項

1. 次回大会について

中山幹事長より，次回大会について，豊田祐貴氏（法政大学経営大学院）を大会実行委員長とし，平成 29 年 3 月 6 日～7 日に次回大会を開催することが提案された。審議の結果，次回大会について，原案通り承認された。

2. セミナーについて

中山幹事長より，平成 28 年度に開催する予定のセミナーについて説明がなされた。内容・協賛会員へのメリット等について議論された。審議の結果，大会会期中にセミナーを開催することが承認された。また，大会期間中とは別にセミナーを開催すること，その際セミナー担当幹事を中心とし，河野康成氏の協力のもと行うことが承認された。

3. フェロー制度の設置について

中山幹事長より，フェロー制度の設置について説明がなされた。非会員にも付与可能とするか否か等について議論された。審議の結果，学会会員に限ってフェローの称号を付与するということが承認された。

4. 会則等の変更について

中山幹事長より，会則について，学会賞の内容（学会賞内規第 4 条 2，同第 4 条 3 と 3（1））を修正する案が説明された。審議の結果，文言の微修正の上承認され，総会に諮ることとなった。さらに，今泉会長より，運営委員会委員および幹事の任期についての修正案が提案された。審議の結果，承認され，総会に諮ることとなった。

5. J-Stage への登録について

中山幹事長より，J-Stage への登録について説明がなされた。審議の結果，承認され，次回総会で報告することとなった。

6. 学会誌バックナンバーの販売について

中山幹事長より，学会誌バックナンバーの販売についての案が提案された。審議の結果，原案通りに承認された。

7. 平成 27 年度事業報告ならびに決算報告について（資料 3）

久保田庶務担当幹事から平成 27 年度事業報告、河野会計担当幹事より平成 27 年度決算報告について説明があった。審議の結果、微修正の上承認され、総会に諮ることとなった。

8. 平成 28 年度事業計画ならびに予算計画について
(資料 4)

久保田庶務担当幹事から平成 28 年度事業計画、河野会計担当幹事より平成 28 年度予算案について説明があった。審議の結果、微修正の上承認され、総会に諮ることとなった。

9. 総会議題

中山幹事長から資料に基づいて総会議題についての説明があり、審議の結果、報告事項に“フェロー制度の設置について”と“それに伴う会則の変更について”を追加し、審議事項に“J-Stage への登録について”を追加することとし、文言の微修正の上承認された。

10. 入退会

河野会計担当幹事より、入退会について 4 名の退会、6 名の入会が説明された。審議の結果、入退会について原案通り承認された。

11. その他

河野会計担当幹事より、会費請求について、特に亡くなられた会員について問題点が説明された。審議の結果、亡くなられた会員については判明次第退会扱いとし、会費の通知は行わないことが承認された。

■閉会の挨拶

中山幹事長の挨拶により運営委員会が閉会された。

・平成 27-28 年度第 6 回ネット運営委員会

開催日時：平成 28 年 5 月 4 日～5 月 11 日
(メールによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

議題 1. 平成 27-28 年度 第 5 回 運営委員会議事録の確定

・平成 27-28 年度第 7 回ネット運営委員会

開催日時：平成 28 年 6 月 20 日～7 月 7 日
(メールによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

議題 1. フェロー授与内規の承認について
(修正案が提案され、審議の結果承認された)

議題 2. 退会承認について

議題 3. 入会承認について

・平成 27-28 年度第 8 回運営委員会議事録

開催日時：平成 28 年 9 月 7 日 (水) 12:30～14:00

開催場所：金沢大学角間キャンパス 人間社会第 1 講義棟 3 階 304 号室 (〒920-1192 金沢市角間町)

出席者：今泉 忠 (会長, 多摩大学), 中山 厚穂 (幹事長, 首都大学東京), 栗原 考次 (岡山大学), 酒折 文武 (中央大学), 水田 正弘 (北海道大学), 横山 暁 (帝京大学) (会長, 幹事長以外五十音順, 敬称略)

陪席者：久保田 貴文 (多摩大学, 庶務担当幹事), 河野 康成 (立教大学リーダーシップ研究所, 会計担当幹事), 竹内 光悦 (実践女子大学, 会計監事) (五十音順, 敬称略)

議題：

審議事項

1. 決算報告・予算案の修正について
 2. 平成 27 年度事業報告・平成 28 年度事業計画の修正について
 3. 入会承認について
 4. 選挙管理委員の選出について
 5. 議事録の承認について
 6. その他
- 報告事項
1. 学会賞選考とフェローについて

資料：

1. 決算報告・予算案の修正について
2. 平成 27 年度事業報告・平成 28 年度事業計画の修正について
3. 入会希望者リスト
4. 選挙管理委員の選出について
5. 議事録の承認について
- 5-1. 日本分類学会平成 27-28 年度第 5 回運営委員会議事録
- 5-2. 日本分類学会平成 27-28 年度第 6 回ネット運営委員会議事録
- 5-3. 日本分類学会平成 27-28 年度第 7 回ネット運営委員会議事録

■開会の挨拶

今泉会長の挨拶により運営委員会が開会された。

議題：

審議事項

1. 決算報告・予算案の修正について

河野会計担当幹事より資料1を基に、平成25年度決算、平成26年度予算、平成26年度決算、平成27年度予算のそれぞれの修正についての説明がなされた。誤りが起こった原因は、平成25年度決算において表計算ソフトの操作ミスがあった点、及び操作ミスが含まれるシートをそのまま次年度以降に引き継いだ点である事が説明された。

また、今後の対策として、会計年度初頭および会計年度末に、幹事長、会計担当幹事、庶務担当幹事の三者が財源別表と決算・予算の照合を行う事が説明された。

審議の結果、会報発送と同時に訂正文及び「訂正箇所の詳細の別刷」を同封する事、訂正箇所についてはHPで公開する事、次回総会にて本件が報告される事が承認された。

2. 平成27年度事業報告・平成28年度事業計画の修正について

久保田庶務担当幹事より資料2を基に、平成27年度事業報告・平成28年度事業計画の修正について、学術会議への登録申請が遅れた旨の説明がなされた。遅れた原因は、申請に必要な項目である「6活動状況(1)機関誌」のうちADACの発行部数の照合が遅れた点である事が説明された。また、既に学術会議へは申請済みで現在先方とのやりとりを行っている旨が報告された。

審議の結果、次回総会にて本件が審議される事が承認された。

3. 入会承認について

久保田庶務担当幹事より資料3を基に、2名の入会申請について説明がなされた。審議の結果、2名の入会が承認された。

4. 選挙管理委員の選出について

中山幹事長より資料4を基に、2名の選挙管理委員の候補者が推薦された。審議の結果、2名が選挙管理委員として承認された。

5. 議事録の承認について

久保田庶務担当幹事より資料5-1、資料5-2、資料5-3を基に、過去の議事録の承認について説明がなされた。文言等の修正が必要なため、継続審議となった。なお、修正が必要な箇所についてはメールにより確認する事となった。

6. その他

6.1 学会誌のページチャージ等の請求について

久保田庶務担当幹事より学会誌のページチャージ、TeX化費用、カラー化費用等の請求について、庶務担当では請求先が不明なため請求の手続きが煩雑になる旨が問題提起された。審議の結果、和文誌編集委員会に本件を依頼する事が承認された。

6.2 特集号について

学会誌におけるIFCS-2017の特集号のための予算およびその担当者について議論がなされ、継続審議となった。

6.3 セミナーについて

「2016年度第1回データ分析セミナー」を担当された河野康成氏(立教大学)から会員・非会員の参加費の価格設定や当日入会のルールについて不明確な点について問題提起がなされ、継続審議となった。

報告事項

1. 学会賞選考とフェローについて

今泉会長より本年度の学会賞選考とフェローの授与に向けての準備状況について報告があった。

■閉会の挨拶

今泉会長の挨拶により運営委員会が閉会された。

○ 幹事会議事録

・日本分類学会平成27-28年度第1回幹事会 議事録

開催日時：平成27年5月18日(月)18:30~20:30

開催場所：立教大学セントポールズ会館、2階会議室

すずかけ(〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1)

出席者：今泉忠(会長、多摩大学)、中山厚穂(幹事長、

首都大学東京)、久保田貴文(多摩大学)、河野康成(立

教大学リーダーシップ研究所)、酒折文武(中央大学)、

鶴見裕之(横浜国立大学)、豊田裕貴(法政大学)、宮

本定明(筑波大学)、山本義郎(東海大学)、横山暁(帝

京大学) (会長、幹事長以外五十音順、敬称略)

議題：

■審議事項

1. 2015年度日本分類学会賞について

2. J-Stageへの登録について

3. 学術会議への登録について

4. 日本分類学会セミナーについて

5. その他

■開会の挨拶

中山幹事長の挨拶により幹事会が開会され、さらに今泉会長より挨拶があった。

また、審議に先立って、中山幹事長より幹事の役割が紹介され、各担当より自己紹介がなされた。さらに、中山幹事長より拡大幹事会のメンバー・役割についても紹介された。今泉会長より幹事会メンバーについて補足説明がなされた。

審議事項

1. 2015年度日本分類学会賞について

中山幹事長より、2015年度の日本分類学会賞について、資料に基づき説明がなされた。募集期間や推薦方法について議論がなされた。また、早期に候補者を推薦していただくため募集の案内が会報と合わせての発送となる点についても議論された。また、予算の都合で、募集の案内が会報と合わせての発送となる点についても議論された。

受賞者講演を3月の大会で開催する旨、その講演者の旅費は補助しないこと、講演の依頼の打診時期などについて議論された。審議の結果、2015年度の日本分類学会賞についての募集期間や推薦方法について、運営委員会に諮る案を会長および幹事長に一任することが承認された。

2. J-Stage への登録について

中山幹事長より、J-Stage への登録について説明がなされた。その内容については、中山幹事長が5月に開催された説明会の参加し、その内容を踏まえて、さらに資料に基づいて説明がなされた。中山幹事長より、Web 搭載機能については、PDF でもアップロード可能である旨が説明され、オプションについて査読やクロスチェックなどの説明がなされた。審議の結果、J-Stage への登録については、事業計画にそって、和文誌・大会報告集を掲載することと、今後の進め方は幹事長・編集委員会に一任することを承認した。なお、次の疑問点、「大会報告集については号を区切って公開できるのか」および「最新号を公開したのちに、過去の号をさかのぼって公開できるのか」については、中山幹事長が先方に確認することとなった。

3. 学術会議への登録について

中山幹事長より資料（要件確認書）にそって学術会議への登録について説明がなされ、審議の結果、学術会議への登録をすることが承認された。なお、申請には会員名簿の整備が必要であり、改めて整備を行うこととなった。また、事務局の連絡先について確認することとなった。

4. 日本分類学会セミナーについて

セミナー担当の豊田幹事より、セミナーの開催回数、日本分類学会としてのセミナーとIFCSに関連したセミナーとの棲み分けについて、内容等について説明がされた。さらに、進め方、対象、回数、会費、学生会員への勧誘等について多くの意見が出され議論がなされた。審議の結果、日本分類学会セミナーについては、セミナー担当幹事が、2015年の夏頃を目処に起案し進めていくということが承認された。

5. その他

横山広報担当幹事（会報・SNS担当）より、会報について説明がなされ、必要な記事の内容、記事の依頼の方法などについて確認がなされた。

■閉会の挨拶

中山幹事長の挨拶により幹事会が閉会された。

・日類学会平成27-28年度第2回幹事会 議事録

開催日時：平成27年9月9日（水）12:00～13:00

開催場所：岡山大学一般教育棟C棟2階 C23教室

（〒700-8530 岡山市北区津島中2丁目1番1号）

出席者：今泉忠（会長、多摩大学）、中山厚穂（幹事長、首都大学東京）、久保田貴文（多摩大学）、栗原考次（岡山大学）、河野康成（立教大学リーダーシップ研究所）、酒折文武（中央大学）、水田正弘（北海道大学）、山本義郎（東海大学）、横山暁（帝京大学）（会長、幹事長以外五十音順、敬称略）

議題

■ 審議事項

1. IFCS-2017 組織構成について

1.1 主催

1.2 国内委員

2. フェロー制度の設置について

3. その他

3.1 大会開催

3.2 セミナー開催

3.3 Japanese Journal of Statistics への話し合いに参加について

3.4 幹事会メンバーなどでの事項共有のためのMLなどの設定

3.5 IFCS-2017 のカンファレンスバッグ

■開会の挨拶

中山幹事長の挨拶により幹事会が開会された。

議題

■ 報告事項

今泉会長より、IFCS-2017 参加促進のために、日本心理学会大会（2015年9月22日～9月24日）、日本社会学会大会（2015年9月19日～9月20日）においてFlierを配布する旨が報告された。

・ 日本社会学会大会では持参回収する

・ 日本心理学会大会では送付する

今泉会長より IACS-ARS での the session organized by the JCS for the IFCS の企画について報告がされた。また、同大会でも今泉会長を中心として参加する

幹事が Flier を配布することも報告された。

■ 審議事項

1. IFCS-2017 組織構成について

IFCS-2017 に関連した情報提供として、今泉会長から、資料に基づき、IFCS-2017 組織構成について、前回日本で開催された IFCS-1996 の主催が大会組織委員会と日本分類学会であったこと、また今回は会場として東海大学にお願いしており、会場の補助も踏まえて、以下の提案がなされたことが説明された。その中で、日本分類学会が 1 主催団体となることが、審議の結果、承認された。

提案

主催としては

- ・大会組織委員会
- ・日本分類学会
- ・東海大学

とする。

以上

2. フェロー制度の設置について

中山幹事長より、資料に基づいて、フェロー制度の設置について説明がなされ、以下のように提案された。

提案：

この制度は会員資格とは別個とする

フェロー制度の選考は学会賞選考委員会が行い、運営委員会で承諾する

フェローの割合、フェロー称号の対象、位置づけや会費、辞退の可否、規約の内容について議論され、シニア会員の制度見直しについても意見が出された。フェロー制度の設置については継続審議となり、その上で運営委員会に諮ることが承認された。

3. その他

3.1 大会開催

平成 27 年度の大会について、東海大学の山本義郎氏を大会実行委員長とし、2016 年 2 月 29 日～3 月 1 日に東海大学高輪キャンパスにて実施すること、大会初日に日本分類学会セミナーを実施することの説明がなされ、審議の結果、承認された。

3.2 セミナー開催

今泉会長から株式会社 NTT データ数理システムから Joint Seminar を提案された旨が説明された。IFCS-2017 へ向けた予算獲得、広報などについて議論があり、継続審議となった。

3.3 Japanese Journal of Statistics への話し合いに参加について

今泉会長から統計関連 6 学会で欧文誌をまとめる案があることについて説明があり、他学会の動向などについて情報提供があった。審議の結果、日本分類学会が話し合いに参加することについて、承認された。

3.4 幹事会メンバーなどでの事項共有のための ML などの設定

今泉会長より、メール関係の ML の必要性が提案された。ML 担当の横山幹事よりエリアス、ML について、既に作成済みの ML や今後の必要性について説明がなされた。また、ML に関連して、IFCS-2017 関係の ML や Web ページのディレクティブについてさらに、ロゴの配色について議論がなされた。Office についての ML を番号付き・外部からは不可ということで作成することが承認された。

3.5 IFSC-2017 のカンファレンスバッグ

中山幹事長より、IFSC-2017 のカンファレンスバッグについて、バッグに入れる内容物について情報提供がされた。協賛との関連について議論され、継続審議となった。

■閉会の挨拶

中山幹事長の挨拶により幹事会が閉会された。

- ・日本分類学会 平成 27-28 年度第 3 回幹事会議事録
開催日時：平成 28 年 2 月 29 日（月）12:00～14:55
開催場所：東海大学高輪キャンパス（〒108-8619 港区高輪 2-3-23 1 号館 2 階 12 会議室）
出席者：今泉忠（会長、多摩大学）、中山厚穂（幹事長、首都大学東京）、岡太彬訓（立教大学）、久保田貴文（多摩大学）、河野康成（立教大学リーダーシップ研究所）、酒折文武（中央大学）、豊田裕貴（法政大学）、山本義郎（東海大学）、横山暁（帝京大学）（会長、幹事長以外五十音順、敬称略）

議題

■ 報告事項

1. 学術会議の登録について

■ 審議事項

1. 次回大会について
2. 次回セミナーについて
3. フェロー制度の設置について
4. 細則および学会賞内規の変更について
5. 学会誌バックナンバーの販売について

6. 平成 27 年度事業報告ならびに決算報告について
7. 平成 28 年度事業計画ならびに予算計画について
8. 総会議題(案)

報告事項

- (1) 大会の次回開催場所について

審議事項：

- (1) 平成 27 年度事業報告ならびに決算報告について
- (2) 平成 28 年度事業計画ならびに予算計画について
- (3) その他

■開会の挨拶

中山幹事長の挨拶により幹事会が開会された。

議題

■ 報告事項

1. 学術会議の登録について

中山幹事長より、資料に基づき、学術会議の登録について進捗状況が報告された。関連する学問分野・分野別委員会について検討された。関連する学問分野・分野別委員会については、理学・工学分野の数理科学委員会で申請することとなった。また、申請の際に必要な情報である ADAC の発行部数については Springer 社に照会することとなった。本年度中に提出する予定である。

■ 審議事項

1. 次回大会について

次回大会について、開催場所・開催時期などの意見交換および議論がなされ、豊田裕貴氏（法政大学経営大学院）を実行委員長として、平成 29 年 3 月 6 日～7 日に開催されることが提案された。審議の結果、提案のとおり承認された。

2. 次回セミナー・シンポジウムについて

今泉会長より、次回セミナーについて、学会として収益性のためにも複数回の開催が必要な旨が説明された。セミナーの対象・時期、賛助会員にメリットとなるための開催について検討された。その上で、大会会期中にセミナーを開催すること、さらに 2 回程度セミナーを開催することが提案された。審議の結果、提案のとおり承認された。後者については河野康成氏を窓口として賛助会員に可能性を探ってもらうこととなった。

合わせて、横山暁氏（連合大会プログラム委員）より、次回シンポジウムとして 2016 年度統計関連学会連合大会の企画セッションとして開催する旨が提案された。企画セッションのテーマとして、学会賞の受賞者講演や学会誌の特集号に関する内容などが提案され

たが、受賞者講演は可能であれば大会時に行ったほうがよいこと、学会誌 Vol.5 の特集号に関する内容は昨年企画セッションですでに取り扱ったことからいずれも難しく、継続審議となった。また、これとは別に、IFCS-2017 の企画セッションも提案することが提案され、承認された。テーマについては同じく継続審議となった。

3. フェロー制度の設置について

フェロー制度の設置について中山幹事長より提案があった。審議の結果、文言を修正の上、運営委員会に諮ることが承認された。

4. 細則および学会賞内規の変更について

中山幹事長より、細則の運営委員および幹事の再任に関する条項を削除することが提案された。審議の結果、提案のとおり運営委員会に諮ることが承認された。また、学会賞内規について、授与対象に関する部分の改正について提案された。審議の結果、文言を修正の上、運営委員会に諮ることが承認された。

5. 学会誌バックナンバーの販売について

中山幹事長より、学会誌バックナンバーの販売について以下のような提案があり、運営委員会に諮ることが承認された。

提案（バックナンバー1冊の販売価格）：

1. ¥5,000（年会費相当額）

2. ただし、新年度（2016 年度）からの学会への新規入会者は無料

入会申込書の提出をもって上記 2 の条件を適用する

以上

6. 平成 27 年度事業報告ならびに決算報告について

平成 27 年度事業報告について、久保田庶務担当幹事より提案があり、文言を修正の上、運営委員会に諮ることが承認された。また、平成 27 年度決算報告について、河野会計担当幹事より提案があり、文言の修正の上、運営委員会に諮ることが承認された。

7. 平成 28 年度事業計画ならびに予算計画について

平成 28 年度事業計画について、久保田庶務担当幹事より提案があり、項目および文言を修正の上、運営委員会に諮ることが承認された。また、平成 28 年度予算計画について、河野会計担当幹事より提案があり、文言の修正の上、運営委員会に諮ることが承認された。

8. 総会議題

中山幹事長より、総会の議題が提案され、運営委員

会に諮ることが承認された。

9. その他

統計関連学会連合における倫理規定（行動基準）策定について今泉会長より説明があり、日本分類学会として行動基準を策定する予定、および統計関連学会連合として行動基準を策定し公表する必要性については検討中である旨を先方に返答することが承認された。

また、第1回、第2回幹事会の議事録が確認された。

■閉会の挨拶

中山幹事長の挨拶により幹事会が閉会された。

●日本分類学会 平成27-28年度第4回ネット幹事会

審議機関：平成28年5月30日～6月4日

(メールによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

議題1. ドメインサービスの契約業者の変更について

事務局から

● 会員情報の変更等について

本年度末に役員改選選挙が予定されております。会員名簿にある住所に投票用紙を送付いたしますので、住所等の変更のある方は事務局 (office@bunrui.jp) までご連絡ください。

● 学会誌への論文投稿について

学会研究報告会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

2011年9月に第1号、2012年9月に第2号、2013年9月に第3号、2015年3月に第4号、2016年3月に第5号を発刊いたしました。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: bda-submit@bunrui.jp

問い合わせ先 E-mail: bda-contact@bunrui.jp

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：

Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)

ドイツ分類学会(German Classification Society) およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group) と共同で、2007年より Springer 社から刊行しております(年間3冊)。欧文の論文はこ

ちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせください。

● 会費納入のお願い

会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンルイガツカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 ○一九(ゼロイチキョウ) 支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンルイガツカイジムキョク

● ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>) のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送りください。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください。申し込み後、幹事会にて入会の承認を行います。承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

■ 編集後記

編集担当幹事 横山暁(帝京大学)

今号に寄稿いただいた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございます。本紙面を借りて、お礼申し上げます。会報のみならずメールニュースや Facebook 等、さまざまな形で情報発信をしていく予定です。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://www.bunrui.jp/>